

今年も田植えの時期がやってきました。今回は定植までの苗の管理と除草剤の使用法の変更点についてお知らせします。

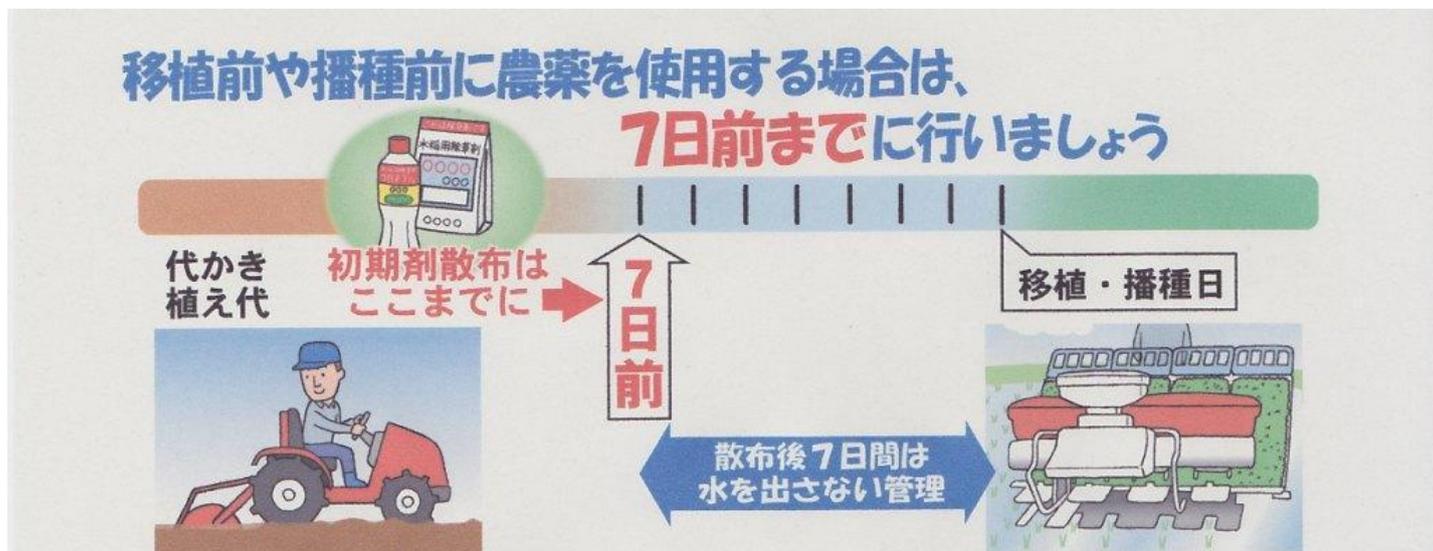
○水稲育苗における留意点

この時期は育苗の温度管理が非常に重要になってきます。以下に苗の生長の限界温度を表にしましたので、参考にしてください。昼間は28℃、夜間は12℃以上の管理が望ましいです。特にタフブロック等の生物農薬を使用する場合は夜温が低くなりすぎないように注意してください。また、日中の温度が30℃を超えるとみ枯れ細菌病が発病しやすくなりますので、換気等で対策をしてください。

表: 苗の生長の限界温度

	時期	温度	障害の症状・程度
低温害	1葉期	2～4℃	20時間で葉に障害が発生し、奇形葉となる。
		-1℃	2時間で根と地上部が枯死。
		-2℃	12分で枯死。
	2葉伸長期	5℃	5時間で伸びが止まる。高温になれば程度によっては回復する。
2葉展開後	5℃	5時間で葉がしおれる。高温になれば程度によっては回復する。	
高温害	本葉期	30℃	呼吸、消耗が盛んに行われ、異常に徒長してくる。
		43℃	20～30分で葉は枯死しないが、苗の生長点が枯死する。
		49℃	1分で枯死。

○除草剤使用の変更点



水稲初期除草剤の使用時期は、これまで

- ・ 植代後（時）～移植4日前まで
- ・ 代かき後（時）～播種4日前まで

の適用がありました。しかし、平成24年8月の法改正により、これからは移植または播種の「**7日前**」までの使用となります。

もし誤って使用した場合は農薬取締法の違反となり、罰則の対象となりますので、必ず守るようにお願いします。

たとえば、昨年度までに製造された除草剤で、ラベルに「4日前」までと書かれていても、今年からは「7日前」までに使用しないと違反になりますので注意してください。



組合員のオススメ資材コーナー



澤山啓司副組合長がオススメする農業資材はコレだ！



「ハウスで野菜を作りたいけど、建てるためにお金や労力がかかるからなあ…」とお考えの方、朗報です！

野菜用の小型ハウスです。通常のハウスと同様に冬から春にかけて半促成栽培を行うことができます。このハウスの長所といえば、なんといってもその設置の手軽さにあります。高さが2メートル弱なので作るのに大人数を必要としません。また、設置にかかる資材費などの金額もずっと安くすみます。使い方としては

- ・秋口に播種を行い、冬期に収穫する
- ・春先に播種し、初夏に収穫する

などが挙げられます。暖くなればビニールを取り払います。冬場のホウレンソウ等の葉菜類の確保や、初夏の時期をずらした野菜の出荷など、その用途は様々です。

今後5月以降あさつゆで建設希望者の募集を行います。是非申し込んでください。

※建設費についてはJAからの補助もあります



澤山さんのコメント

「安いし組み立ても楽。元手はかからないし、ビニールをかけたたりするのもカンタン。ぜひオススメです！」

小型ハウス

資材費：一棟につき数万円程度

メリット：通常のハウスと比べて非常に安価(1/10程度!)であり、設置も容易

デメリット：強度は一般のハウスよりも劣る



一般のハウスと比べるとこの通り！



あさつゆ農園にも設置してあります。(見本)

今月の画像

- ★ トマト苗植え付け 誘引
- ★ 簡易小型ハウスの作り方
- ★ キュウリの芽かき

電子版はあさつゆレジにて

あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

E-mail：asatsuyu55@ued.janis.or.jp

技術事項作成協力

上小農業改良普及センター（近藤・岡崎）

電話番号：0268-25-7156